

テレワーク と BCP

ICTを活用したテレワーク。いくつかの方法があります。それらのメリットや意外な弱点を、BCPの観点を変えてご紹介します。

テレワークとBCPを両立させる要件とは？

テレワーク（遠隔勤務）＝どこでも仕事ができる

BCP（事業継続）＝どんなときでも仕事ができる

「仕事」はPCの中に入っている

つまり「どこでも」「いつでも」（仕事用の）"PCを使うことができれば良い"のですね。では、いくつかの方法をこの要件と照らしてみたいと思います。

会社のPCを持ち出す？



仕事で使用しているノートPCを持ち出せば、「どこでも」「いつでも」仕事はできますよね。テレワークにもBCPにも対応できるシンプルな方法ですね。

でも、情報セキュリティの面で重大な弱点があります。それは「盗難や紛失で情報漏洩が避けられない」ということです。個人情報や経理のデータが漏洩してしまうと現代では重大な経営リスクとなります。

この他にも、落下による故障、社内のファイルサーバ等にアクセスできないという弱点もあります。インターネットVPNで解決することもできますが・・・。

情報漏洩リスクを考えると「どこでも仕事ができる」とは言いにくいです。

会社のPCをリモート操作する？

先ほどインターネットVPNという言葉が出てきました。これは、インターネットと専用の機器を使用して、会社のネットワークに接続することです。

VPNを使用できて、会社のPCがWindows10 Proなら、データが入っていないPCから会社のPCを操作することができます。これをリモートデスクトップと呼びます。まるで、会社にいるのと同じように作業をすることができます。

でも、この方式にも弱点があります。それは、「会社のPCがシャットダウンしたりすると使用できない」ということです。停電の場合も、同様に使用できなくなってしまいます。

情報セキュリティへの配慮ができるのですが、どんなときでも仕事ができるとは言いにくいので、BCPの側面では少し弱くなりますね。そして、一人が仕事をするためにPCが2台必要となることも費用面の弱点ですね。

会社のPCをクラウドで動かす

これまでの二つの方式は"機械であるPC"にデータが入っているため、「機械の盗難＝情報漏洩リスク」、「機械の停止＝BCP対応力の欠如」が弱点となっていました。

それでは、機械そのものを仮想化（ソフトウェア化）してしまったらどうでしょう。仮想化した機械はVM＝バーチャルマシンと呼びます。このバーチャルマシンを、停電に強いクラウドに登録して、データの入っていないPCで操作するのです。

こうするとインターネットさえあれば、仕事用のPCと同等のVMを「どこでも」「いつでも」使用できます。会社とクラウドの間にVPNを接続すれば、会社のファイルサーバ等にもアクセスできます。もちろん、このファイルサーバ等をクラウドに移しても良いですね。



ネットワーク/仮想化/クラウドのことなら**ネクステック**にご相談ください

札幌市北区北7条西5丁目8-1 北7条ヨシヤビル8F **株式会社ネクステック** 担当：井上
y-inoue@nextech.co.jp

